

令和3年度
第9回ビジネスコミュニケーション検定試験
実施報告及び今後の検定試験について
(令和3年7月11日実施)

資 料



主 催 公益財団法人全国商業高等学校協会

公益財団法人全国商業高等学校協会 主催
ビジネスコミュニケーション検定試験規則

(平成 25 年 2 月、平成 26 年 2 月、平成 27 年 2 月、令和 3 年 2 月改定・令和 4 年 4 月施行)

- 第 1 条 公益財団法人全国商業高等学校協会は、ビジネスマナーおよびコミュニケーションに関する知識および能力を検定する。
第 2 条 検定は筆記試験によって行う。
第 3 条 検定は 1 種類とし、級の区別を設けない。
第 4 条 検定試験は全国一斉に同一問題で実施する。
第 5 条 検定試験は年 1 回実施する。
第 6 条 検定試験の出題範囲は別に定める。
第 7 条 検定に合格するためには、次の成績を得なければならない。

試験名	合格基準
筆記試験	100点満点で、70点以上

- 第 8 条 検定に合格した者には、合格証書を授与する。
第 9 条 前条による合格証書は、次の様式による。

様 式

第 号
合格証書
氏名
年 月 日生
本協会主催 第 回ビジネスコミュニケーション検定試験に合格したことを証します。
令和 年 月 日
公益財団法人 全国商業高等学校協会
理事長 氏 名 印

- 第 10 条 検定試験志願者は所定の受験票に受験料を添えて本協会に提出しなければならない。
第 11 条 試験委員は高等学校その他の関係職員がこれに当たる。

ビジネスコミュニケーション検定試験施行細則

- 第 1 条 受験票は本協会で作成し、受験票は試験当日持参しなければならない。
第 2 条 検定試験規則第 5 条による試験日は、毎年 12 月の第 3 日曜日とする。
第 3 条 筆記試験の制限時間は 40 分とする。
第 4 条 受験料は、1,300 円とする。(消費税を含む)
第 5 条 試験会場では試験委員の指示に従わなければならない。
第 6 条 合格発表は試験施行後 1 か月以内に行う。その日時は試験当日までに発表する。

ビジネスコミュニケーション検定試験実施に係る特例について
新検定移行期における令和 4 年度・5 年度に限り、検定試験を年 2 回実施する。
試験日は、7 月の第 2 日曜日および 12 月の第 3 日曜日とする。

令和3年9月25日作成

令和3年度 第9回ビジネスコミュニケーション検定試験

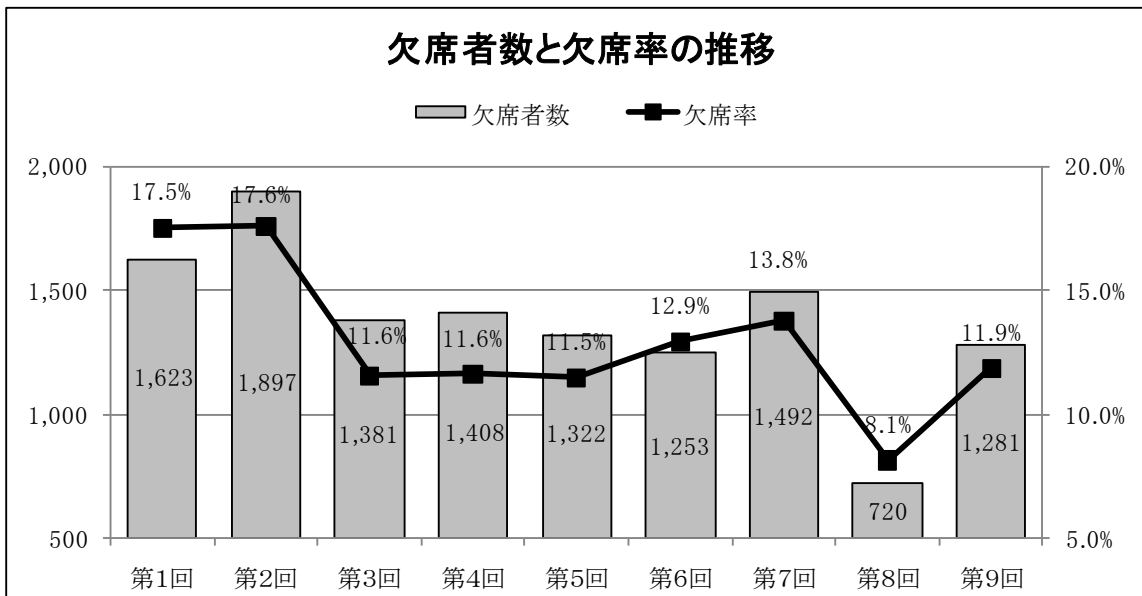
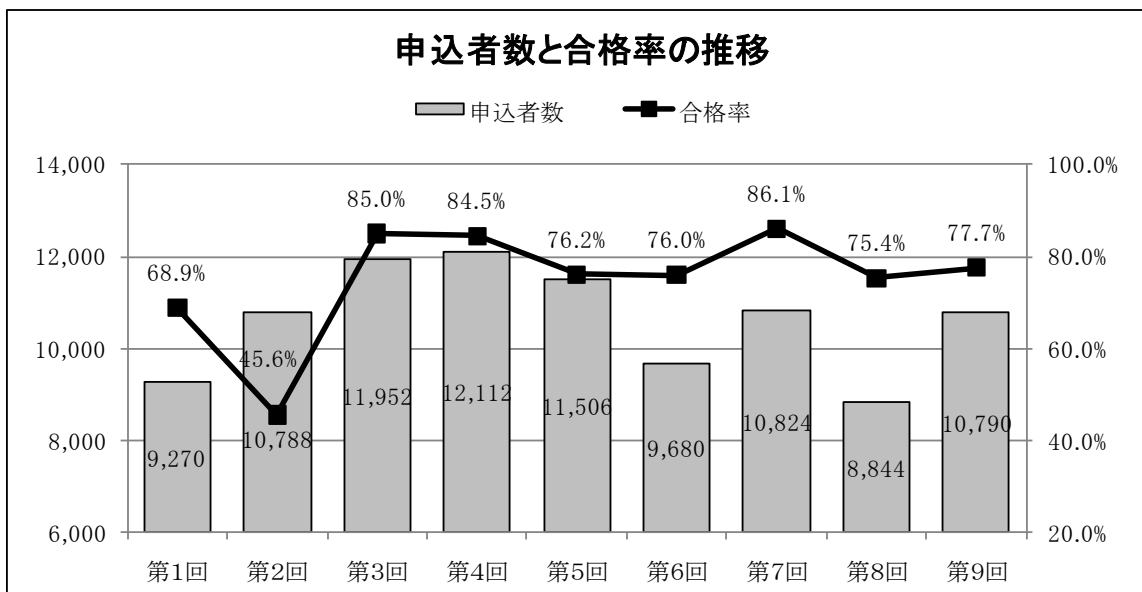
本部校アンケート **集計結果**

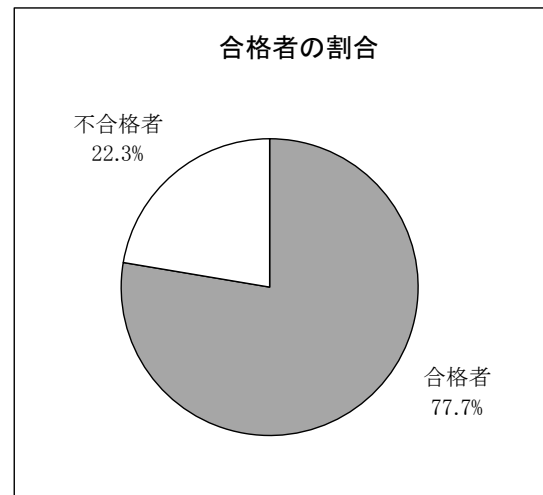
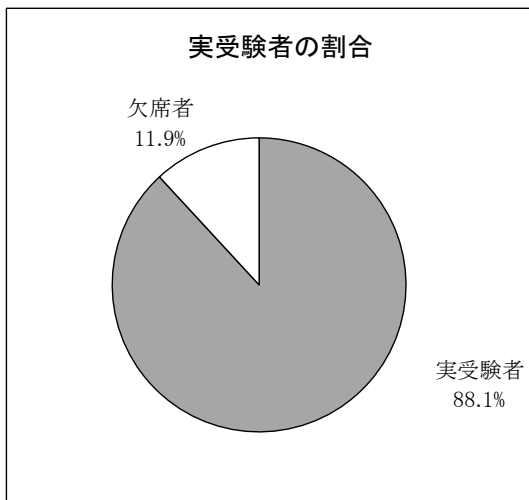
1. 受験状況

〈全 般〉

(注)本部校アンケートには未回収分があるため、全商 Web による集計値より作成した。

年	回	試験場校 分会場校	申込者数	欠席者数	欠席率	実受験者	合格者数	不合格者数	合格率
2013	第1回	239	9,270	1,623	17.5%	7,647	5,265	2,382	68.9%
2014	第2回	263	10,788	1,897	17.6%	8,891	4,056	4,835	45.6%
2015	第3回	255	11,952	1,381	11.6%	10,571	8,986	1,585	85.0%
2016	第4回	245	12,112	1,408	11.6%	10,704	9,040	1,664	84.5%
2017	第5回	248	11,506	1,322	11.5%	10,184	7,756	2,428	76.2%
2018	第6回	216	9,680	1,253	12.9%	8,427	6,406	2,021	76.0%
2019	第7回	233	10,824	1,492	13.8%	9,332	8,034	1,298	86.1%
2020	第8回	208	8,844	720	8.1%	8,124	6,122	2,002	75.4%
2021	第9回	242	10,790	1,281	11.9%	9,509	7,384	2,125	77.7%



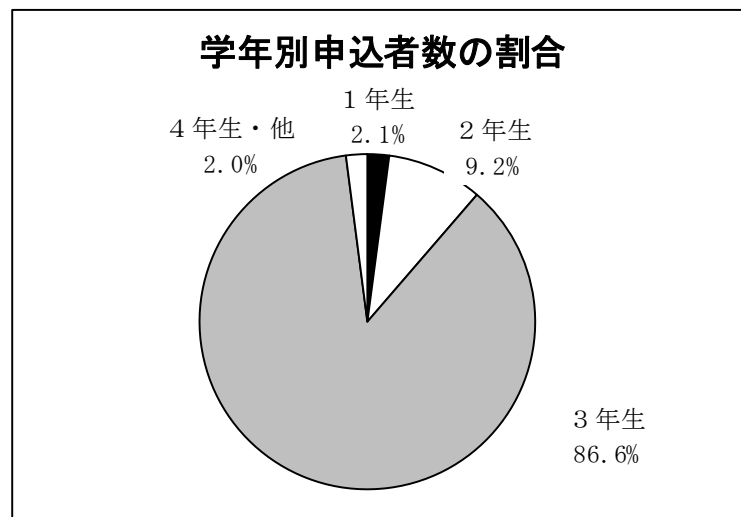


〈学年別受験状況〉

学年	申込者数	欠席者数	欠席率	実受験者	合格者数	不合格者数	合格率
1年生	148	6	4.1%	142	103	39	72.5%
2年生	655	66	10.1%	589	434	155	73.7%
3年生	6,143	644	10.5%	5,499	4,528	971	82.3%
4年生・他	145	14	9.7%	131	37	94	28.2%
合計	7,091	730	10.3%	6,361	5,102	1,259	80.2%

(注1) 本部校アンケートには未回収分があるため、全商Webによる集計値と異なる値となっている。

(注2) 本部校アンケートには複数回答や回答数の不一致、集計方法の誤り等がある。



〈不合格者の内訳〉

内訳	人数	割合
筆記だけ不合格	1,222	97.1%
面接だけ不合格	14	1.1%
筆記・面接ともに不合格	23	1.8%
合計	1,259	100.0%

2. 受験者の内訳

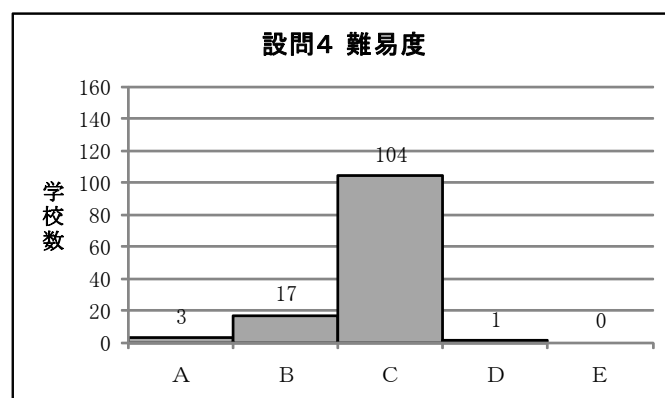
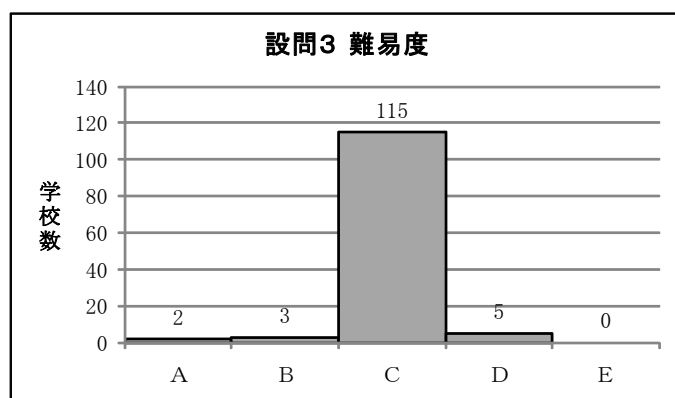
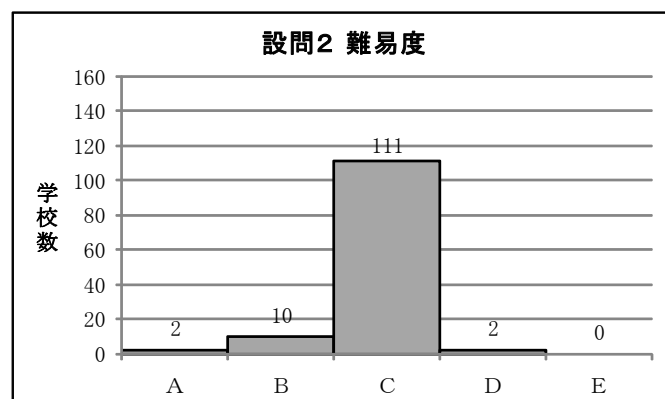
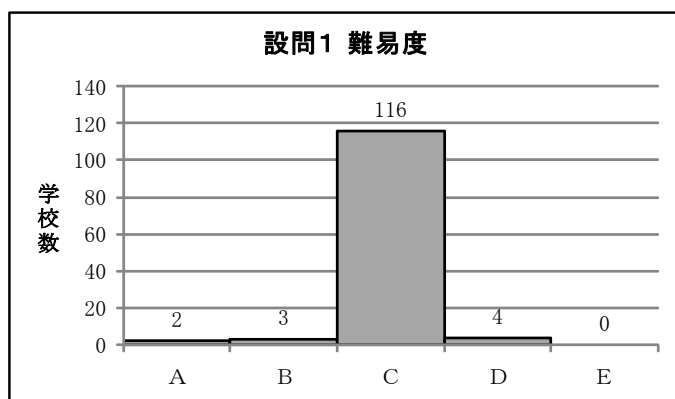
内訳	計	割合
特定授業履修者全員	58	46.8%
就職希望者全員	7	5.6%
学年全員(1年生)	1	0.8%
学年全員(2年生)	1	0.8%
学年全員(3年生)	10	8.1%
学年全員(学年不明)	2	1.6%
希望者のみ	32	25.8%
その他	13	10.5%

3. 受験にあたっての学習形態

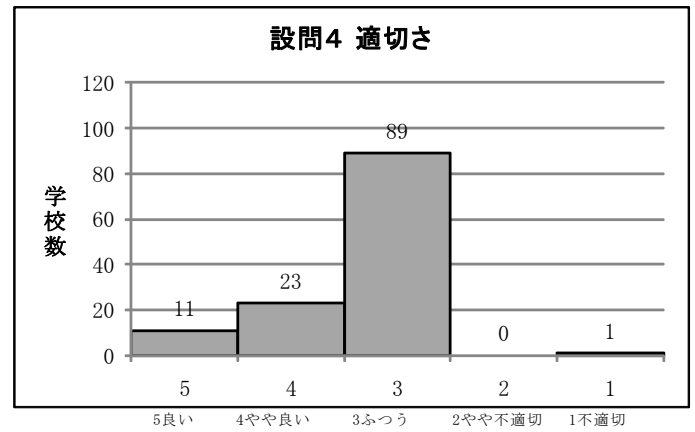
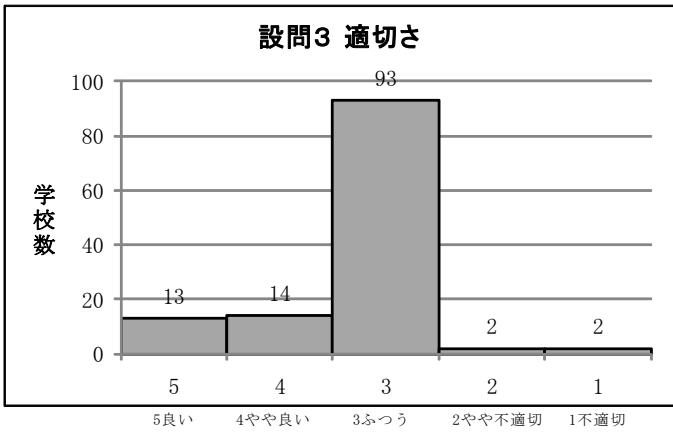
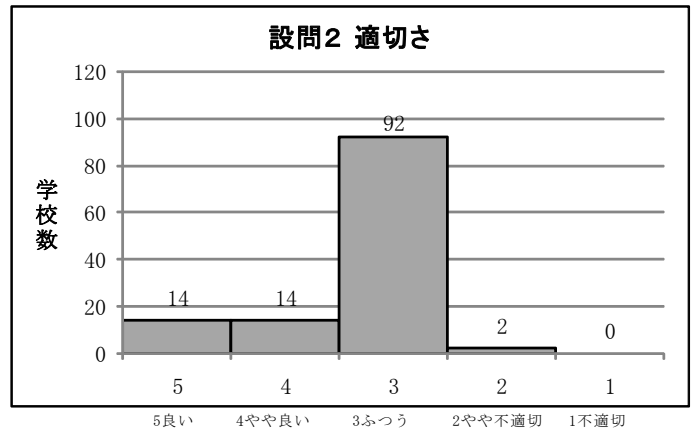
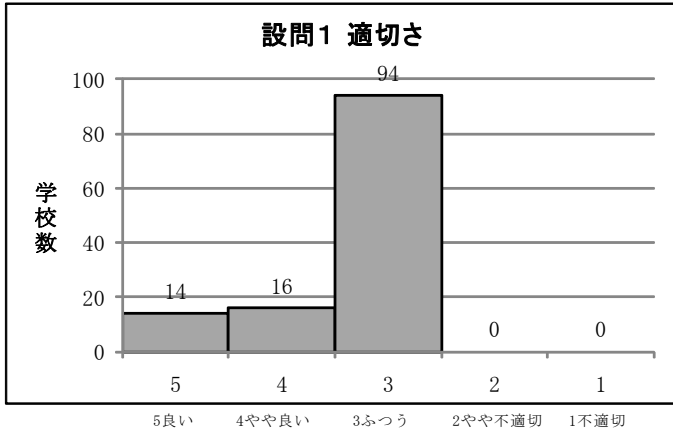
内訳		計	割合	
授業	ビジネス基礎	5	3.5%	70.4%
	ビジネス実務	30	21.1%	
	広告と販売促進	1	0.7%	
	総合実践	27	19.0%	
	課題研究	19	13.4%	
	総合的な学習の時間	3	2.1%	
	学校設定科目	11	7.7%	
	その他の科目	4	2.8%	
	授業外	ホームルーム等	3	
講習会等	2	1.4%		
進路指導の一環	9	6.3%		
受験者の自主学習	27	19.0%		
期間限定補習	0	0.0%		
その他	1	0.7%		

4. 筆記試験の難易度と適切さ

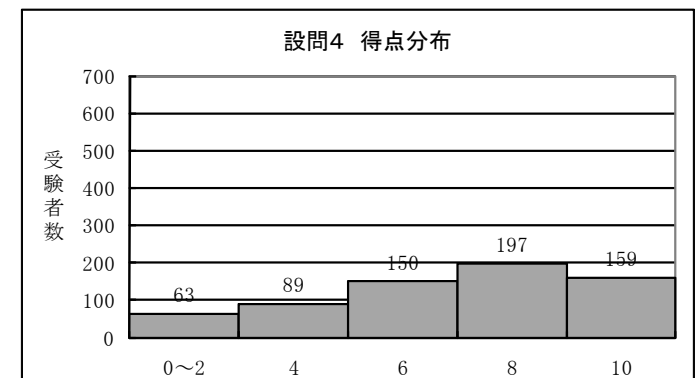
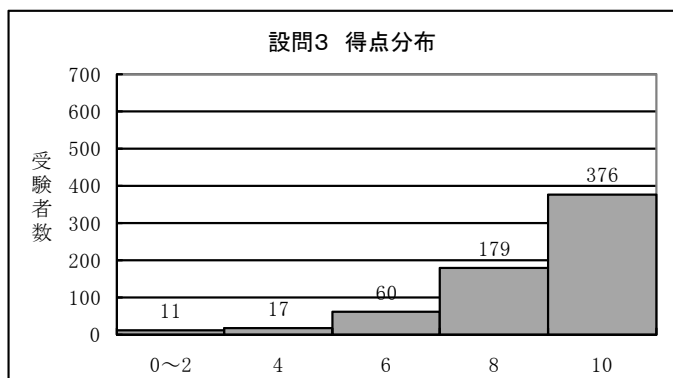
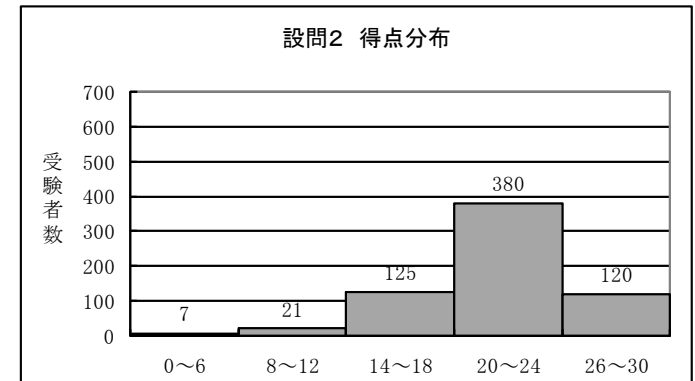
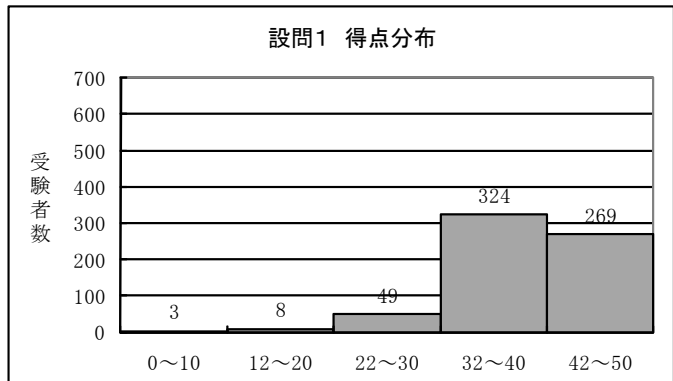
〈設問別難易度〉



〈設問別適切さ〉



〈設問別得点分布〉



〈筆記試験意見〉

【設問1（ビジネスマナーに関する内容）】

- ・良問であった。全般的に良問。適切な問題である
- ・男性・女性の身だしなみを分けて考えるのは、ジェンダーレスの時代を考えると変化するという必要があると感じました。

【設問2（コミュニケーションに関する内容）】

- ・良問であった。全般的に良問。適切な問題である
- ・在宅勤務など時代に合った内容があり、良かったと思います。
- ・在宅勤務の出題はコロナ禍でタイムリーかもしれないが一部の大企業が行っている状況なので、設問としてはあまり適切ではないのではないかと。
- ・在宅勤務などの問題は素晴らしかった。
- ・タイムリーな問題が出題されていてよい
- ・(2)(5)の時事問題 在宅勤務などの時事問題は、取り入れが早すぎても理解が定着していない場合があるので注意が必要と思われる。
- ・在宅勤務の問題はタイムリーな良問だった。
- ・在宅勤務の出題もあり、工夫があって良い。
- ・「コロナ禍におけるビジネス環境」についての学習が足りなかった。

【設問3（設定場面における適切な対応）】

- ・良問であった。全般的に良問。適切な問題である
- ・クレーム処理の対応というのはわかるのだが、状況の設定として実現適ではないのではないかと。
- ・社員Cは誰なのか、で迷う受験生が多かった。社員Cは誰なのかを問題文に明示するか、登場させない問題が適切。検定の問題に迷いを生じさせる必要はなく、Cを登場させた意図が不明。
- ・問題文だけで解けてしまった。(文章題の必要性)

【設問4（ビジネス全般に関する内容）】

- ・良問であった。全般的に良問。適切な問題である

5. 面接試験についての意見集約

【面接試験全般】

- ・良い質問内容であったと思います。(福島県)
- ・次回から面接がなくなってしまうのは残念です。(福島県)
- ・もう少し一人に対する時間を取れるとよい。(茨城県)
- ・緊張感をもって面接に臨んでいる生徒も多く、就職試験や進学に役立つと思う。(埼玉県)
- ・自分の長所や短所を見つめ直す機会として良いと思う。(埼玉県)
- ・3年生は就職試験の前なので、緊張感がありました。今後もぜひ続けてほしいです。(新潟県)
- ・適切な問題だった。(福井県)
- ・進路指導の一環として有効である。現状維持でお願いします。(静岡県)
- ・来年度から廃止の方向ですが、授業で面接練習を繰り返し行ったことで生徒のコミュニケーション力がみるみる向上していきました。実技試験があることが秘書検定と差別化されているところだったので非常に残念です。(三重県)
- ・適切であった。(滋賀県)
- ・本検定の最大の特徴である「面接試験」がなくなるのは残念である。また、就職指導の一環として使用してきた本校としては今後利用しづらくなった。(和歌山)
- ・面接試験を課すことによりキャリア教育のとっかかりとして進路多様校においても好評であった。検討されている上位級については、ぜひとも面接試験を再度戻し、就職試験前に実施をお願いしたい。(和歌山)
- ・普段から担当している教員による面接ではあったが、生徒は緊張感をもって実施しており、よい面接であったといえる。(島根県)
- ・来年から面接がなくなるのが残念です。(岡山県)
- ・進路実現をはかるのに大切なこの時期、面接を伴う試験は生徒にとっても意義のあるものになるのではないかと思います。ぜひ、この面接は続けてもらいたいと希望します。(愛媛県)
- ・特に3年生にとっては、進路に向けて良い機会となった。(高知県)
- ・問題なくおこなえた。(佐賀県)
- ・面接試験の実施はとても良かった。継続してほしい。(佐賀県)
- ・就職試験の準備中なので、こういった形で出題していただけるのは大変ありがたい。生徒も一生懸命に取り組んでくれています。(佐賀県)
- ・新型コロナ流行禍における面接試験の実施に関しては神経を使った。しかし、対面式の面接試験が減少している現状下において、面接試験ができたことは、今後の受験生のキャリアにおいてプラスになると考える。(沖縄県)

【面接試験の実施時期】

- ・面接開始時刻を9時指定ではなく、若干早めて実施するなど、任意設定にさせてほしい。地方は、公共交通機関が首都圏のように頻繁には発着しておらず、時刻に応じた対応ができるようにしたい。筆記試験は統一でかまいません。(福島県)
- ・筆記試験の時間帯が決まっているので、面接試験はその前後の時間帯で実施しているが、集合時間を勘違いする生徒がおり、筆記試験を受験できない生徒も増えてきた。(徳島県)

【質問内容】

- ・ある程度質問内容も一般的であり、生徒も準備して臨めたため、そこでの話し方、姿勢なども細かく見ることができた。(北海道)
- ・試験官の台本がもっと時系列順位並んでいるとわかりやすいです。(福島県)
- ・コロナ禍での面接実施にあたり、もう少しマニュアルがあると大変に助かる。(群馬県)
- ・長所をふまえて自己紹介すると、自己PRに近くなり、厳密にいうと別物ではないかと思われるので、指導が難しい。(新潟県)
- ・例年と違う問題を少しは取り入れた方がよいのではないか。(静岡県)
- ・応用問題の時間が120秒あれば、応答を掘り下げる深みが出てくると思う。(愛媛県)
- ・卒業後についての質問があり、1学年が回答することが難しい内容があった。(鹿児島県)

【評価】

- ・短い面接試験の時間で評価を課すことに難しさを感じた。(宮城県)
- ・もう少し規定を絞っていただけると評価しやすくなると思います。(静岡県)
- ・採点箇所がすべてCでないと不合格にならないので、なかなか不合格者が出ないです。(静岡県)
- ・審査基準の差があった。共通認識を作るべき。(佐賀県)

【その他】

- ・面接は2ローテーションを組みました。長寿命化工事中であり、教室の選定と、受験生徒が接触しないよう動線を考える必要がありました。(岡山県)

6. ビジネスコミュニケーション検定試験全般についての意見集約

【実施時期について】

- ・今年度(4月)から2単位で進めている。ビジネスコミュニケーション検定テキストの範囲をすべて終えることを常に意識してやっていたが、もっと丁寧に時間をかけてやりたい内容ばかりだと感じている。検定の時期が2学期だともっといいかと思う。(静岡県)
- ・検定日が期末試験の期間と重なり、検定に向けて最後まで指導がしきれなかった。他の検定日との兼ね合いや進路の記録として使うため、この日程に設定したのかと考えると、致し方ないのかもしれないが、今年は時期としては厳しさを感じた。(徳島県)
- ・年2回の実施になってもこの時期は崩さずをお願いしたい。(佐賀県)

【内容について】

- ・筆記試験も面接試験も難易度は適切に感じた。(北海道)
- ・消去法で回答できるので、勉強(暗記)が苦手な生徒でも解きやすいので良いと思う。(福島県)
- ・適切な問題であった。(静岡県, 滋賀県)
- ・最近の話や語句も入っていて良い。(滋賀県)
- ・生徒たちが社会人になってから本当の意味で必要な知識であるうえ、考えさせる良問だと思う。これからも継続して実施したい。(愛媛県)

【試験時間について】

- ・筆記試験時間が40分に設定されているが、大半の生徒は、30分もかからず終了している。そのため、筆記試験の実施時間を短くしてもよいのではないかと。(北海道)
- ・今回は筆記試験の40分が少し足りない生徒がいた。(熊本県)
- ・(勉強が苦手な生徒が多いため)見直しの時間として5分程度、時間をプラスして頂けるとゆっくり解けるのではないかと感じた。(福島県)
- ・筆記試験の受験時に面接試験を受けた者と受けていない者がいるのは「適切で公平な状況」ではないしそれを前提に実施例を示されても困る。筆記試験の時間を9:00~9:40に繰り上げてほしい。(愛媛県)

【面接の実施について】

- ・次年度から面接がなくなるのは残念である。(福島県)
- ・ビジネスマナーと併せて、進路の面接指導ができた。(高知県)
- ・今後の受験生のキャリアにおいてプラスになると考えるので、可能であれば、面接試験は継続して欲しい。(沖縄県)
- ・就職試験前の生徒たちにとって大変良い機会になった(佐賀県)
- ・面接試験実施が良い(佐賀県)
- ・面接試験がなくなるというだが、面接があることがこの試験の良さだと感じている。(熊本県)
- ・面接する側は大変なこともあり、判断にブレが出やすいとは思いますが、進路指導にはとても有効的だと思う。(熊本県)
- ・監督者(面接官)の人数を確保するのが難しくなりつつある。(静岡県)

【感想】

- ・希望者は多くはないが、生徒にとって良い機会なので今後も受験させたい。(高知県)

【その他】

- ・3単位で実施しているが、後半のビジネスコミュニケーション、オフィス実務の範囲を実施できないまま検定日になってしまう。実施時期として7月検定には賛成だが、授業で全く触れないことでも常識的なこととして、問題集等で勉強しておけという指導は悩むところである。(青森県)
- ・面接試験が廃止されるのなら、英語検定と同様にマークシート方式での実施が良い。(群馬県)
- ・解答用紙の封入ミスがあったので、今後気をつけて欲しい。(山口県)
- ・回数は年一回が良い。(高知県)

ビジネスコミュニケーション検定試験の出題範囲の改定について

令和4年度からの新学習指導要領において、新科目「ビジネス・コミュニケーション」が新設されるにあたり、ビジネスコミュニケーション検定の出題範囲が改定されます。しかしながら、現行の学習指導要領において学習している令和4年度の3年生（現2年生）および2年生（現1年生）の受験機会を保障するため、令和4年度及び5年度においては下記のとおり、新旧の検定試験をそれぞれ年1回実施することになります。実施予定日及び出題範囲等を事前にご確認いただきますようお願い申し上げます。

1 ビジネスコミュニケーション検定の出題範囲及び実施回

(1) 現行のビジネスコミュニケーション検定試験の出題範囲等

ア 令和3年度に実施された第9回検定試験と同様に、**これまで実施されてきたビジネスコミュニケーションの出題範囲となります。**詳細は別紙1をご確認ください。

イ 現行のビジネスコミュニケーション検定試験は、現行の教育課程において学習する**令和4年度の3年生（現2年生）及び2年生（現1年生）の受験を想定しています。**ただし、令和4年度の1年生の受験を妨げるものではありません。

(2) 新ビジネスコミュニケーション検定試験の出題範囲等

ア 令和4年度からの新学習指導要領において新設された「**ビジネス・コミュニケーション**」の**教科書に準拠した出題範囲となります。**詳細は別紙2をご確認ください。

イ 新ビジネスコミュニケーション検定試験は、**令和4年度においては「ビジネス・コミュニケーション」を履修する1年生を、また、令和5年度においては「ビジネス・コミュニケーション」を履修する1年生及び2年生の受験を想定しています。**ただし、その他の生徒の受験を妨げるものではありません。

(3) 面接試験について

令和4年度から、現行の出題範囲で実施される、第10回ビジネスコミュニケーション検定試験から**面接試験は実施しません。**また、新検定試験においても**面接試験は実施しません。**

2 令和4年度以降のビジネスコミュニケーション検定試験の実施計画

7月実施： 第2日曜日午前 12月実施： 第3日曜日午後

年度	実施	回	範囲
令和4 (2022)年度	7月	第10回検定試験	現行出題範囲（ 面接試験なし 筆記のみ）
	12月	第11回検定試験	新出題範囲（筆記）
令和5 (2023)年度	7月	第12回検定試験	現行出題範囲（ 面接試験なし 筆記のみ）
	12月	第13回検定試験	新出題範囲（筆記）
令和6 (2024)年度	12月	第14回検定試験	新出題範囲（筆記）
令和7 (2025)年度	12月	第15回検定試験	新出題範囲（筆記）

ビジネスコミュニケーション検定試験 現行出題範囲

※網掛部分は、新出題範囲には含まれない項目

1. ビジネスマナーに関する内容

(1) ビジネスマナーの重要性

- ア. 社会人の資質
- イ. ビジネスマナーの基本

(2) ビジネスマナーの実際

- ア. 身だしなみ
 - ①身だしなみの基本
 - ②男性の身だしなみ
 - ③女性の身だしなみ
- イ. あいさつ
 - ①あいさつの基本
 - ②場面に応じたあいさつ
 - ③お辞儀
- ウ. 敬語の使い方
 - ①敬語の種類
(尊敬語・謙譲語・丁寧語)
 - ②敬語の使い分け
- エ. 電話の応対
 - ①電話の受け方
 - ②電話のかけ方
- オ. 接客と訪問時のマナー
 - ①名刺交換のマナー
 - ②紹介のマナー
 - ③アポイント(訪問予約)のマナー
 - ④訪問時のマナー
 - ⑤来客対応のマナー
 - ⑥席次のマナー
- カ. 食事のマナー
 - ①マナーの基本
 - ②料理の種類に応じたマナー
- キ. 冠婚葬祭のマナー
 - ①冠婚葬祭の基本
 - ②慶事のマナー
 - ③弔事のマナー
 - ④贈り物のマナー

2. コミュニケーションに関する内容

(1) コミュニケーションの重要性

- ア. 職場の人間関係
 - ①社会人としてのルール
 - ②組織の一員としてのルール
- イ. コミュニケーションの基本
 - ①社内でのコミュニケーション
 - ②社外でのコミュニケーション

(2) コミュニケーションの実際

- ア. ビジネス会話
 - ①ビジネス会話の基本
 - ②ディスカッション
 - ③プレゼンテーション
 - ④交渉
 - ⑤苦情対応
- イ. 会議
 - ①会議の目的・種類・形式・進行
 - ②会場設営
 - ③議事の進め方
 - ④議事録

ウ. ビジネス文書の作成

- ①ビジネス文書の基本
- ②社内文書
- ③社外文書
- ④社交文書
- ⑤文書の発信

エ. 事務の仕事

- ①業務の進行方法
- ②スケジュール管理
- ③オフィス環境の整備
- ④事務用品の管理
- ⑤資料管理

オ. 情報機器の活用と留意点

- ①ソフトウェアの活用
- ②電子メール
- ③モバイル端末
- ④FAX

カ. 情報の収集と分析

- ①関連法規
- ②インターネット, 新聞, その他の出版物
- ③表とグラフの活用

キ. 販売スキルと接遇

- ①販売スキルと接遇の基本
- ②商品知識とセールストーク
- ③アプローチとクロージング

3. 総合問題

実際のビジネスの場面を想定した内容

4. 関連知識

(1) ビジネスと経営組織

- ア. 経営組織の原則
 - ①経営組織の階層化
 - ②管理のルールと意思決定
- イ. 経営組織の種類
 - ①企業の成長にともなう組織の変化
 - ②経営組織と経営戦略

(2) 企業の責任とビジネス倫理

- ア. 企業の社会的意義と役割
 - ①企業活動と倫理観
 - ②企業の社会的責任
- イ. 職場のルールとビジネス倫理
 - ①就業規則と慣習
 - ②コンプライアンスとコーポレートガバナンス
 - ③関連法規

(3) ビジネスに関する時事

ビジネスコミュニケーション検定試験 新出題範囲〈案〉

※網掛部分は、現行出題範囲には含まれない項目

1. ビジネスマナーに関する内容

(1) 応対に関するビジネスマナー

ア. 身だしなみ・表情・身のこなし

- ①身だしなみの基本
- ②男性の身だしなみ
- ③女性の身だしなみ
- ④表情
- ⑤身のこなし

イ. あいさつ

- ①場面に応じたあいさつ
- ②お辞儀

ウ. 言葉遣い

- ①敬語の種類（尊敬語・謙譲語・丁寧語）
- ②場面に応じた敬語の使い方
- ③ビジネスの場での言葉遣い

エ. 名刺交換・紹介

- ①名刺交換
- ②紹介

オ. 訪問・来客応対

- ①アポイント（訪問予約）
- ②訪問
- ③受付・案内・見送り
- ④お茶の接待
- ⑤席次

カ. 電話応対

- ①電話の受け方
- ②電話のかけ方
- ③場面に応じた電話応対
- ④携帯電話の使い方

(2) 交際に関するビジネスマナー

ア. 冠婚葬祭

- ①冠婚葬祭の基本
- ②慶事
- ③弔事
- ④贈答

イ. 食事

- ①テーブルマナーの基本
- ②日本料理・和食
- ③西洋料理・洋食
- ④中国料理
- ⑤立食スタイル

(3) 接客に関するビジネスマナー

ア. 接客

- ①接客の心構え
- ②商品知識
- ③購買心理
- ④販売スキル

イ. ホスピタリティ

2. コミュニケーションに関する内容

(1) 経営組織と人間関係

ア. 経営組織と意思決定

- ①経営組織の種類
- ②意思決定の方法

イ. 業務の進行

- ①業務の進行方法
- ②スケジュール管理

(2) コミュニケーションの重要性

ア. 職場の人間関係

- ①社会人の資質とルール
- ②組織の一員としてのルール
- ③信頼関係と人的ネットワーク

イ. コミュニケーションの基本

- ①コミュニケーションの種類
- ②コミュニケーションの方法
- ③論理的な考え方
- ④ディベート

(3) コミュニケーションの実際

ア. ビジネスコミュニケーションの技法

- ①ディスカッション
- ②プレゼンテーション
- ③交渉
- ④苦情対応
- ⑤ソーシャルメディアの活用

イ. 会議

- ①会議の目的・種類・形式
- ②会議の基本的な流れ
- ③会場設営
- ④議事の進行
- ⑤議事録

ウ. ビジネス文書

- ①ビジネス文書の基本
- ②社内文書
- ③社外文書
- ④社交文書
- ⑤文書の受発信
- ⑥電子メール

3. ビジネスに関する時事問題

令和3年度 第9回 ビジネスコミュニケーション検定試験 申込者数・受験者数・合格者数集計表

令和3年7月11日(日)実施

No.	都道府県名	試験場 校数	分会場 校数	高校			一般			合計		
				申込	受験	合格	申込	受験	合格	申込	受験	合格
1	北海道	4	0	130	115	110	1	1	1	131	116	111
2	青森県	2	0	17	10	10	0	0	0	17	10	10
3	岩手県	3	0	89	85	72	0	0	0	89	85	72
4	宮城県	7	0	507	399	317	19	15	14	526	414	331
5	秋田県	4	2	90	66	54	0	0	0	90	66	54
6	山形県	2	0	46	37	17	0	0	0	46	37	17
7	福島県	10	1	388	378	308	9	9	5	397	387	313
8	茨城県	9	0	396	345	245	0	0	0	396	345	245
9	栃木県	10	0	1,059	997	871	0	0	0	1,059	997	871
10	群馬県	6	0	475	445	406	0	0	0	475	445	406
11	埼玉県	7	1	361	343	237	5	3	3	366	346	240
12	千葉県	2	1	145	134	108	0	0	0	145	134	108
13	山梨県	2	1	112	89	74	0	0	0	112	89	74
14	東京都	4	0	181	165	103	0	0	0	181	165	103
15	神奈川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	新潟県	8	2	401	378	316	0	0	0	401	378	316
17	富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	石川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	福井県	5	0	89	79	68	0	0	0	89	79	68
20	長野県	4	2	429	397	258	0	0	0	429	397	258
21	静岡県	10	0	743	695	562	0	0	0	743	695	562
22	愛知県	10	4	667	585	429	6	6	2	673	591	431
23	岐阜県	2	1	92	77	41	0	0	0	92	77	41
24	三重県	4	0	118	108	84	0	0	0	118	108	84
25	滋賀県	4	0	155	132	109	0	0	0	155	132	109
26	京都府	4	0	82	66	43	0	0	0	82	66	43
27	大阪府	5	0	286	215	157	0	0	0	286	215	157
28	兵庫県	4	0	269	216	183	4	4	3	273	220	186
29	奈良県	2	1	37	35	32	16	14	10	53	49	42
30	和歌山県	3	0	155	117	96	0	0	0	155	117	96
31	鳥取県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32	島根県	2	3	87	63	48	0	0	0	87	63	48
33	岡山県	10	0	538	445	351	0	0	0	538	445	351
34	広島県	3	0	85	65	42	0	0	0	85	65	42
35	山口県	5	3	130	124	78	0	0	0	130	124	78
36	香川県	4	0	167	137	86	0	0	0	167	137	86
37	徳島県	4	2	233	180	129	0	0	0	233	180	129
38	愛媛県	9	0	290	252	204	3	3	3	293	255	207
39	高知県	3	0	71	59	45	0	0	0	71	59	45
40	福岡県	4	0	216	172	135	0	0	0	216	172	135
41	佐賀県	5	1	396	363	279	0	0	0	396	363	279
42	長崎県	3	0	52	49	48	0	0	0	52	49	48
43	熊本県	3	2	78	76	68	0	0	0	78	76	68
44	大分県	4	2	203	194	131	0	0	0	203	194	131
45	宮崎県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
46	鹿児島県	7	2	329	296	215	0	0	0	329	296	215
47	沖縄県	3	0	333	271	174	0	0	0	333	271	174
合計		206	31	10,727	9,454	7,343	63	55	41	10,790	9,509	7,384
合格率				77.7%			74.5%			77.7%		